

「宮入り」と「氏地曳行」は、神社祭祀である「例祭式（十月五日）」に伴って行なわれる、氏子主体の「神賑行事」である。「神賑行事」とは、神前での厳肅な祭祀に伴って、氏子らが行なう行事の総称であり、氏子自らが楽しむことよって産土神を榮しませるといった性格の行事である。地域によつて、山や鉾やその他練り物が出たり、獅子舞を舞ったり、剣道大会が催されたりと、その趣が顕著に異なり、「八木」では、「岸和田型」の地車を曳行する。

「宮入り」では、氏子総出で地車を曳き、境内に入った後、本殿で執り行なわれる「宮入り式」に、十一ヶ町の町会長（平成十六年からは曳行責任者



宮入り（平成十六年）

宮入り

「宮入り式」式次第

- 一、修祓
- 一、宮司一拝
- 一、献饌
- 一、祝詞奏上
- 一、玉串奉奠
- 一、撤饌
- 一、宮司一拝



宮入り式（平成十六年）

も）が参列する。この「宮入り式」において、各町地車は、各町の産土神の御分霊を頒たれた御幣を賜り、地車の大屋根上部「鳥衾」に取り付ける（町によつては「枅合」に納める）。「宮入り」は、凶作の年や台風の直撃の年、戦争末期や、戦後、地車曳行が廃れた時期には、行なわれないこともあったが、逆に、「国家奉祝（明治七年）」、「大嘗祭（昭和・平成二年）」のような国や地域を上げての祝事には曳き出される。

昨年は、超大型台風22号の直撃。豪雨の中、壮絶な「宮入り」が行なわれた



宮入り（平成十五年）



宮入り（平成十五年）



大嘗祭 宮入り（平成二年）

平成二年十一月二十三日、天皇即位後最初の新嘗祭である「大嘗祭」には、十一ヶ町の地車が、夜疑神社に「宮入り」を行なった。前旗には「日章旗」、吊り下げ旗には「御大礼 大嘗祭 天皇さまのおまつり」の文字が見える。

写真提供・夜疑神社

